

第5章

前食育推進計画の最終評価

第5章 前食育推進計画の最終評価

1 最終評価の概要

計画に定めた取り組みの柱ごとの目標達成状況について、最終評価を行いました。結果は以下のとおりです。

取り組みの柱	指標数	判定		
		◎	○	△
【1】家庭における食育の推進	23	4 17.4%	8 34.8%	11 47.8%
【2】保育所・学校園における食育の推進	2	1 50.0%	1 50.0%	0
【3】地域における食育の推進	8	0	3 37.5%	5 62.5%
【4】食の恵みを活かした食育の推進	3	0	2 66.7%	1 33.3%
【5】食育推進のための環境づくり	6	0	3 50.0%	3 50.0%
総合計	42	5 11.9%	17 40.5%	20 47.6%

【評価の記号は以下のとおり】

◎：目標値を達成

○：最終評価値が当初と比較して向上

△：最終評価値が当初と比較して進捗がみられない

総合計をみると、42 指標のうち、5 指標が◎、17 指標が○、20 指標が△となっており、取り組みの柱【1】家庭における食育の推進と【2】保育所・学校園*における食育の推進では、目標達成項目がみられましたが、それ以外では目標達成項目はありませんでした。

全体としては、◎「目標値を達成」と○「最終評価値が当初と比較して向上」がみられる指標が、△「最終評価値が当初と比較して進捗がみられない」指標よりも多くなっています。

2 目標の達成状況と課題（各論）

【1】家庭における食育の推進

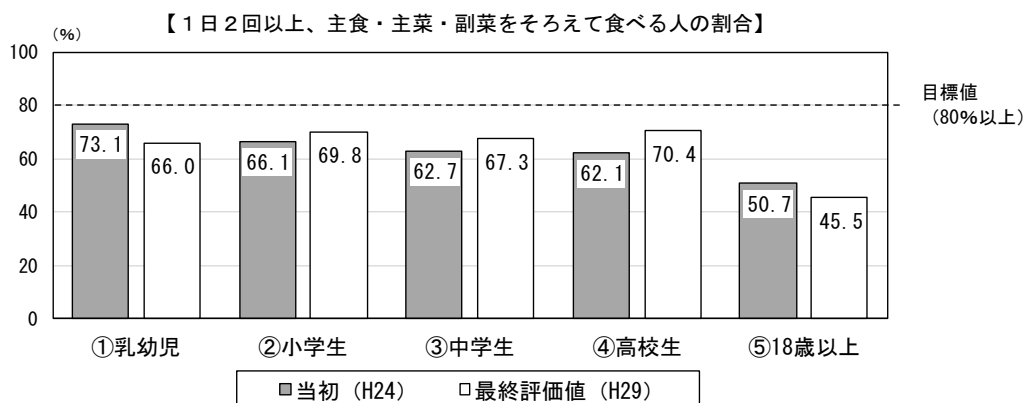
（1）評価指標の達成状況

■指標(1)1日2回以上、主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の割合の増加

1日2回以上、主食*・主菜*・副菜*をそろえて食べる人の割合をみると、平成24年度に比べて、①乳幼児は7.1ポイント、⑤18歳以上は5.2ポイント減少しています。一方で、②小学生は3.7ポイント、③中学生は4.6ポイント、④高校生は8.3ポイント増加していますが、いずれも目標値は達成していません。

<目標値>

①乳幼児、②小学生、③中学生、④高校生、⑤18歳以上 80%以上

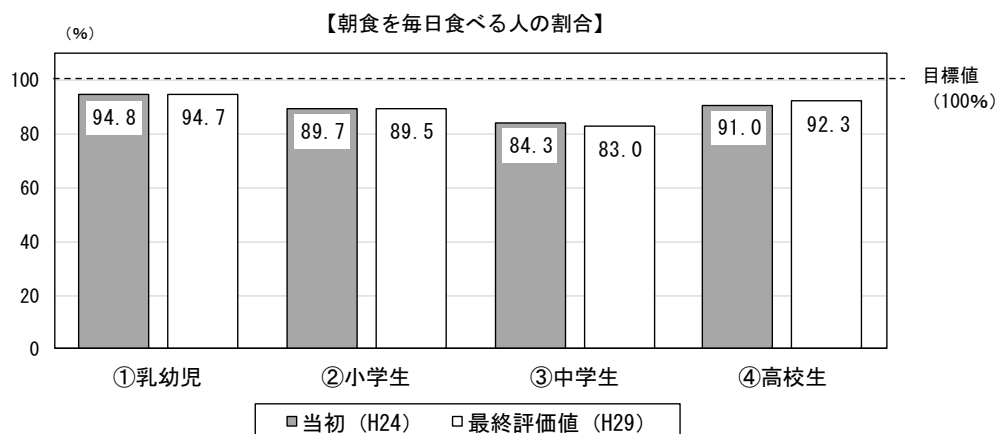


■指標(2)朝食を毎日食べる人の割合の増加

朝食を毎日食べる人の割合をみると、平成24年度に比べて、①乳幼児は0.1ポイント、②小学生は0.2ポイント、③中学生は1.3ポイント減少しています。一方で、④高校生は1.3ポイント、⑤20歳代は2.4ポイント増加していますが、いずれも目標値は達成していません。

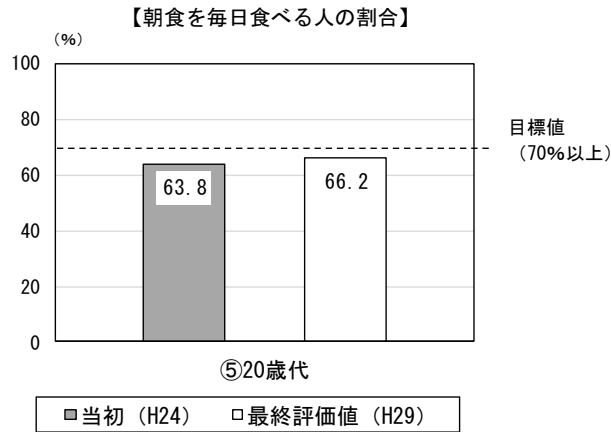
<目標値>

①乳幼児、②小学生、③中学生、④高校生 100%



<目標値>

⑤20歳代 70%以上



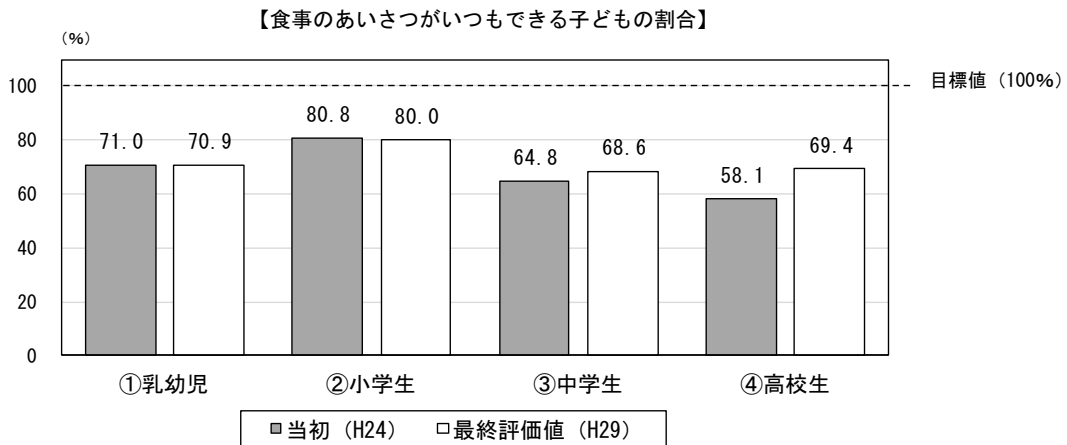
資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

■指標(3) 食事のあいさつがいつもできる子どもの割合の増加

食事のあいさつがいつもできる子どもの割合をみると、平成24年度に比べて、①乳幼児は0.1ポイント、②小学生は0.8ポイント減少しています。一方で、③中学生は3.8ポイント、④高校生は11.3ポイント増加していますが、いずれも目標値は達成していません。

<目標値>

①乳幼児、②小学生、③中学生、④高校生 100%



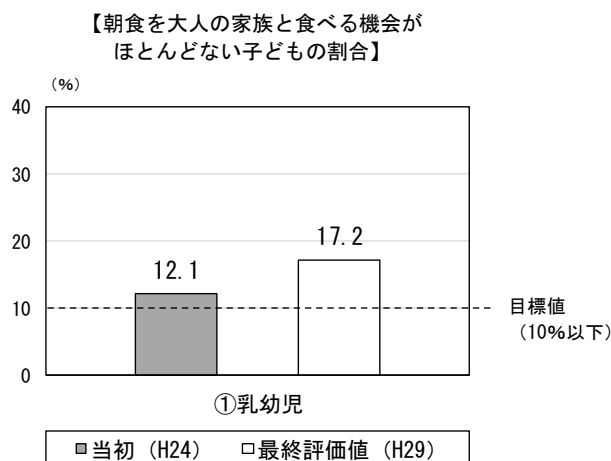
資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

■指標(4)朝食を大人の家族と食べる機会がほとんどない子どもの割合の減少

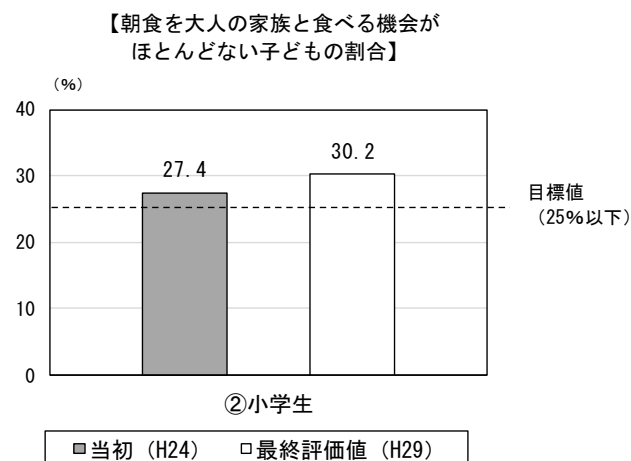
朝食を大人の家族と食べる機会がほとんどない子どもの割合をみると、平成24年度に比べて、①乳幼児は5.1ポイント、②小学生は2.8ポイント増加しています。一方で、③中学生は3.6ポイント、④高校生は9.1ポイント減少しており、④高校生については目標値を達成しています。

<目標値>

①乳幼児 10%以下

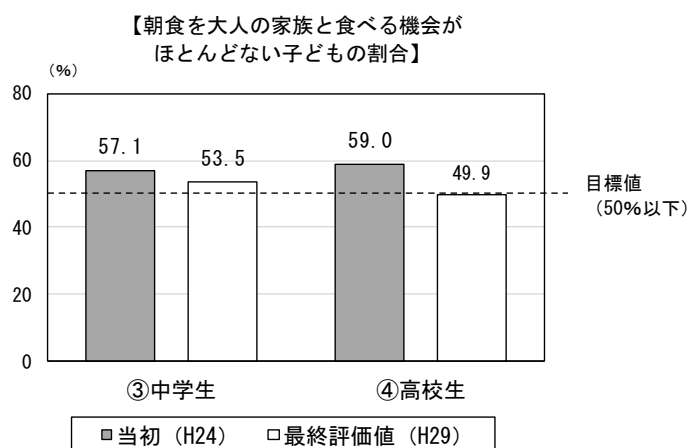


②小学生 25%以下



資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

③中学生、④高校生 50%以下



資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

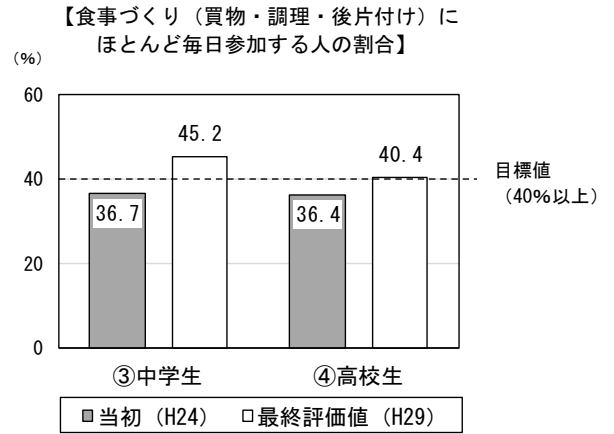
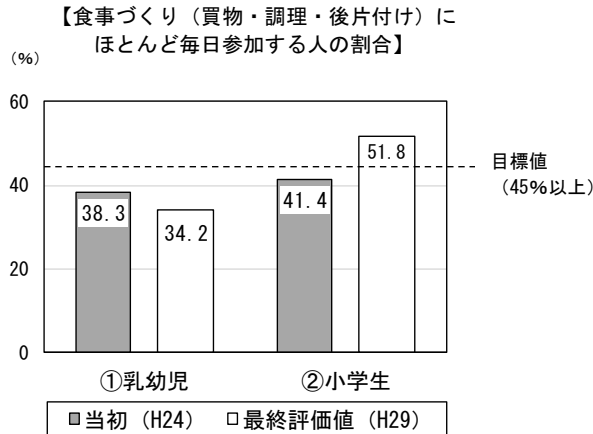
■指標(5) 食事づくり(買物・調理・後片付け)にほとんど毎日参加する人の割合の増加

食事づくりにほとんど毎日参加する人の割合をみると、平成24年度に比べて、①乳幼児は4.1ポイント、⑤18歳以上は2.6ポイント減少しています。一方で、②小学生は10.4ポイント、③中学生は8.5ポイント、④高校生は4ポイント増加しており、②小学生、③中学生、④高校生については目標値を達成しています。

<目標値>

- ①乳幼児 45%以上
- ②小学生 45%以上

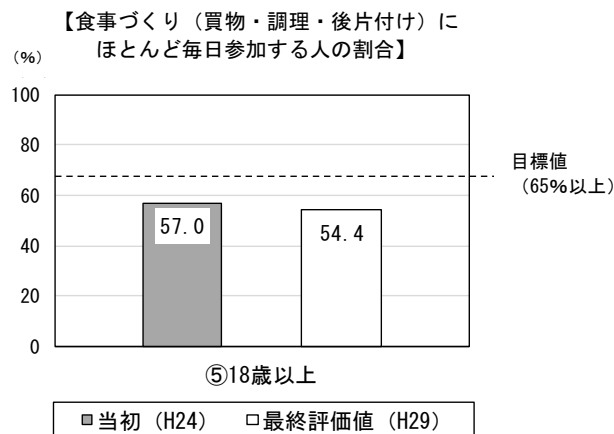
- ③中学生 40%以上
- ④高校生 40%以上



資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

<目標値>

- ⑤18歳以上 65%以上



資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

(2) これまでの主な取り組み

- 健康教育（健康づくり講座*、出前健康教育等）や健康相談事業（巡回健康相談*、電話相談等）、特定保健指導*、健康づくり支援事業*（ウェルネス健康チャレンジ*）など、あらゆる機会に生活習慣病*予防及び改善につながる取り組みや、望ましい食習慣や栄養に関する正しい知識について情報提供してきました。
- 乳幼児健康診査や母子保健事業（ママとベビーのおしゃべりサロン*等）、介護予防事業（いきいき百歳体操*、地域高齢者サロン*等）において、ライフステージ*に応じた栄養指導や食生活支援を行ってきました。
- 学校給食献立表や食育だより、家庭教育啓発パンフレットの配布やかこがわウェルネス手帳*の活用により、朝食摂取や栄養バランス等について普及啓発を行ってきました。また、加古川市いずみ会*事業（親子料理教室、トライやるウィーク*受入等）においても、地域で幅広い世代を対象に家庭での食育につながる取り組みを行ってきました。

【トライやるウィークでの食育事業の様子】



(3) 最終評価から見てきた課題

- 栄養バランスを考えた食生活の実践は、18歳以上で進捗がみられませんでした。生涯にわたって健康的な食生活の実践を定着するための取り組みを強化する必要があります。
- 朝食の摂取状況について、乳幼児・小学生・中学生では進捗がみられなかったことから、「早寝・早起き・朝ごはん」を推進し、生活リズムを形成することが必要です。
- 乳幼児及び小学生で朝食の孤食*が増加傾向にあることや、食事のあいさつが定着していないことから、社会環境や家族構成の変化による影響が大きいことを踏まえたうえで、できるだけ家庭での共食*の機会を増やすように働きかけることが必要です。
- 乳幼児においては、すべての指標で進捗がみられませんでした。今後さらに、子どもたちからの望ましい食習慣の定着や栄養バランスを考えた食生活の実践に向けた取り組みが必要です。

【2】 保育所・学校園における食育の推進

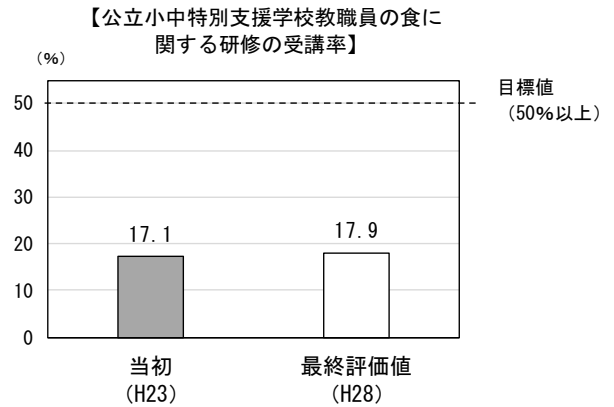
(1) 評価指標の達成状況

■指標(1) 公立小中特別支援学校教職員の食に関する研修の受講率の増加

公立小中特別支援学校教職員の食に関する研修の受講率をみると、平成23年度に比べて、0.8ポイント増加していますが、目標値は達成していません。

<目標値>

50%以上



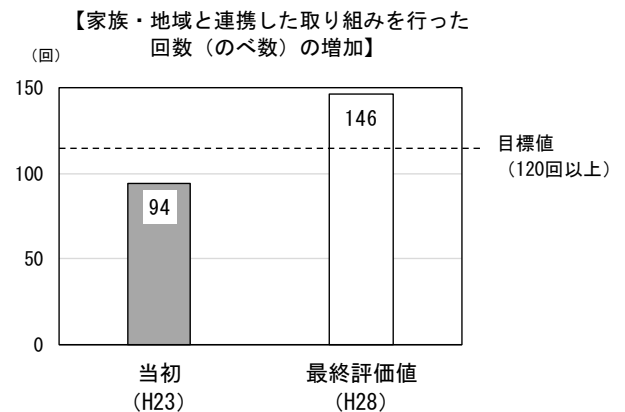
資料：食に関する指導状況調査 (H23・H28)

■指標(2) 家庭・地域と連携した取り組みを行った回数(のべ数)の増加

家庭・地域と連携した取り組みを行った回数(のべ数)をみると、平成23年度に比べて、52回増加しており、目標値を達成しています。

<目標値>

120回



資料：食に関する指導状況調査 (H23・H28)

(2) これまでの主な取り組み

- 保育所では、食育計画に基づき、食育教室や食育プログラム（エプロンシアター*等）、バイキング給食、栽培・収穫体験、クッキングなど子どもの発達段階に見合った取り組みを実施してきました。また、給食参観*の実施や給食献立表及び食育だよりの配布により、家庭への食育推進につなげてきました。
- 学校園*では、栄養教諭*を中心に全教職員で食に関する年間指導計画に基づく食育活動を実施してきました。
- 学校と家庭・地域の連携強化に向けて、学校給食展を開催し、学校給食への理解を深めました。また、地元のお米や野菜等を農業関係団体から提供してもらい、地産地消*の推進と食を大切にする心を育てる取り組みを実施してきました。
- かがわ食材学習支援事業*として児童・生徒を対象に、ゲストティーチャー*が食育授業と加古川市産食材を使用した調理実習を行いました。

【幼稚園でのパネルシアターの様子】



【ひょうご食育月間（10月）給食委員会の様子】



【教科における食育指導・栄養教諭による食に関する指導の様子】



(3) 最終評価から見てきた課題

- 公立小中特別支援学校教職員の食に関する研修の受講率は若干向上がみられますが、学校での指導力・実践力をより高めるためには、今後も引き続き受講率を上げていく体制づくりが必要です。
- 家庭・地域と連携した取り組みを行った回数（のべ数）は目標値を達成しています。今後も現状維持またはさらなる取り組み回数（のべ数）の増加を目指します。

【3】地域における食育の推進

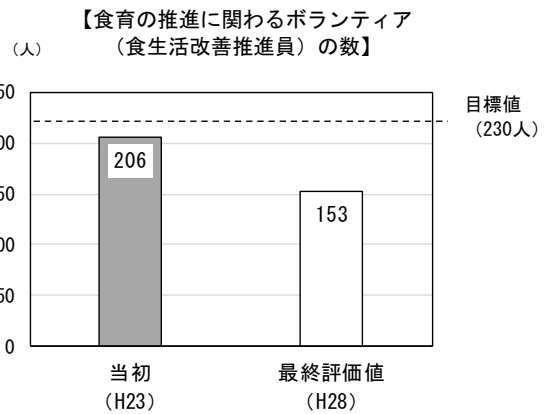
(1) 評価指標の達成状況

■指標(1)食育の推進に関わるボランティア (食生活改善推進員)の数の増加

食育の推進に関わるボランティア（食生活改善推進員*）の数をみると、平成23年度に比べて、53人減少しており、目標値は達成していません。

<目標値>

230人



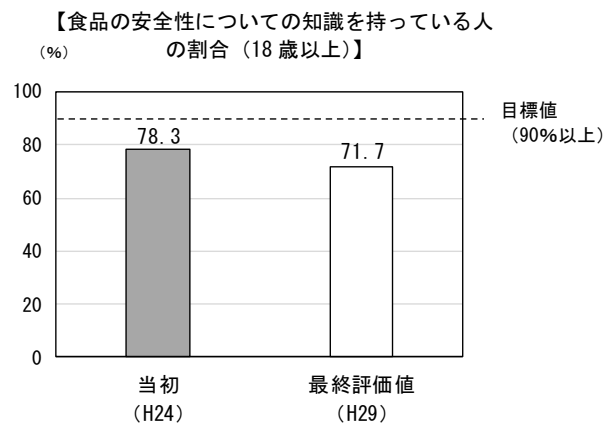
資料：市 いずみ会年報（H23・H28）

■指標(2)食品の安全性についての知識を持っている人の割合の増加

食品の安全性についての知識を持っている人の割合をみると、平成24年度に比べて、6.6ポイント減少しており、目標値は達成していません。

<目標値>

90%以上



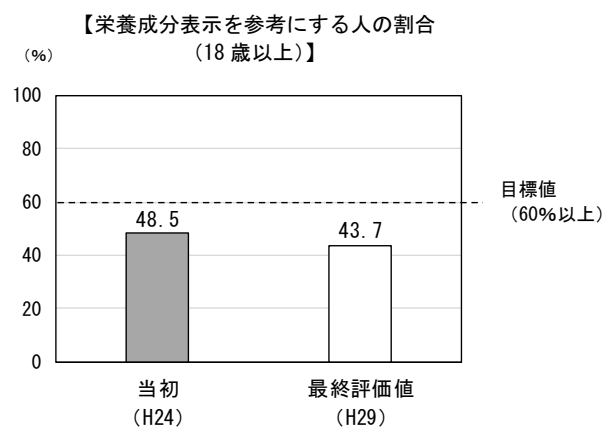
資料：市 食と健康についてのアンケート（H24・H29）

■指標(3)栄養成分表示を参考にする人の割合の増加

栄養成分表示*を参考にする人の割合をみると、平成24年度に比べて、4.8ポイント減少しており、目標値は達成していません。

<目標値>

60%以上



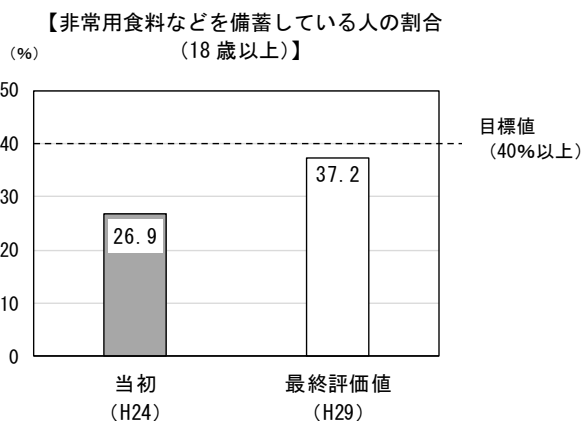
資料：市 食と健康についてのアンケート（H24・H29）

■指標(4)非常用食料などを備蓄している人の割合の増加

非常用食料などを備蓄している人の割合をみると、平成 24 年度に比べて、10.3 ポイント増加していますが、目標値は達成していません。

<目標値>

40%以上



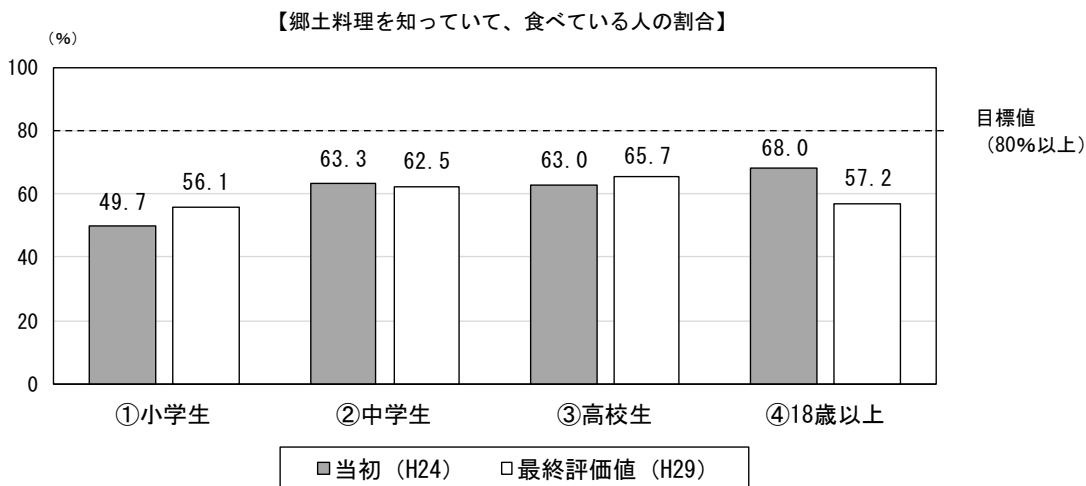
資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

■指標(5)郷土料理を知っていて、食べている人の割合の増加

郷土料理*を知っていて、食べている人の割合をみると、平成 24 年度に比べて、②中学生は 0.8 ポイント、④18 歳以上は 10.8 ポイント減少しています。一方で、①小学生は 6.4 ポイント、③高校生は 2.7 ポイント増加していますが、いずれも目標値は達成していません。

<目標値>

①小学生、②中学生、③高校生、④18 歳以上 80%以上



資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

(2) これまでの主な取り組み

- 地域における食育の推進に関わるボランティア（食生活改善推進員*）の数を増やすために、兵庫県と共催で、食と健康づくりリーダー養成講座*を開催しています。また、食育推進ボランティアの育成支援を目的に、年間10回の中央研修を実施し、食育・栄養に関する健康教育及び調理実習を実施してきました。
- 加古川市いずみ会*事業として、すべての世代を対象に食生活改善及び食育推進活動を実施してきました。特に、夏休み親子料理教室や保育所・学校での食育講座、食生活改善講習会（ヘルシー料理教室、パッククッキング*等）に重点をおきました。
- いざという時の食の備えについて普及するとともに、具体的な調理方法としてパッククッキング*を地域の子育てプラザやいきいき百歳体操*実施団体等へ広めてきました。
- 様々な食のイベント（ご当地グルメフェスティバル、加古川ツーデーマーチ*等）を活用し、観光振興の観点から『かつめし』をはじめとしたご当地グルメのPRを行ってきました。また、加古川市いずみ会*オリジナルのかつめしレシピを考案し、普及啓発してきました。
- 地域子育て創生事業*として、市内公民館を中心に子どもの心豊かな人間性や協調性を育むための食育講座や伝統料理の実習等を展開してきました。

【家庭教育学級 料理教室の様子】



【ご当地グルメフェスティバル】



【加古川市いずみ会中央研修の様子】



(3) 最終評価から見えてきた課題

- 食育の推進に関わるボランティア（食生活改善推進員*）の数が減少傾向にあることから、魅力ある活動ができるような支援や会員増加に向けた取り組みが必要です。
- 食品の安全性についての知識の普及啓発や、食品表示*や栄養成分表示*を活用して食を選択する力を身につけるための取り組みが必要です。
- 非常用食料などを備蓄している人の割合は向上がみられますが、目標値には達していないので、今後もさらなる普及啓発が必要です。
- 地域の郷土料理*を知っていて、食べている人の割合は18歳以上で進捗がみられないことから、すべての世代を通して地域の食文化への理解・関心を高めるような取り組みが必要です。

【4】食の恵みを活かした食育の推進

(1) 評価指標の達成状況

■指標(1)食に関する指導において体験活動(栽培活動など)を実施する学校園数の増加

食に関する指導において体験活動(栽培活動など)を実施する学校園数をみると、平成24年度の91/96校園から、平成29年度は98/99校園になっています。(※当初より、保育所が3か所増設されたため、母数を変更)

実施している学校園数は増加していますが、目標値は達成していません。

<目標値>

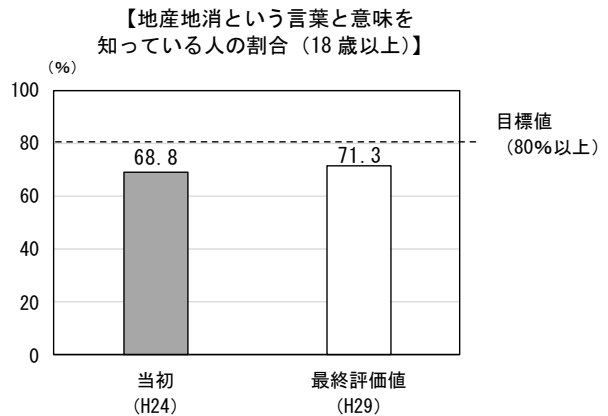
100%(全学校園で実施)

■指標(2)地産地消という言葉と意味を知っている人の割合の増加

地産地消*という言葉と意味を知っている人の割合をみると、平成24年度に比べて、2.5ポイント増加していますが、目標値は達成していません。

<目標値>

80%以上



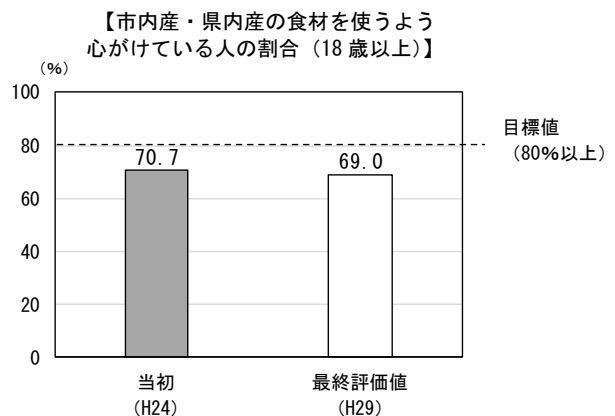
資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

■指標(3)市内産・県内産の食材を使うよう心がけている人の割合の増加

市内産・県内産の食材を使うよう心がけている人の割合をみると、平成24年度に比べて、1.7ポイント減少しており、目標値は達成していません。

<目標値>

80%以上



資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

(2) これまでの主な取り組み

- 未利用農地等活性化対策事業*として、特産品開発の取り組みや地産地消*を推進するために農業体験等（かこがわ育農塾*）を実施してきました。また、地産地消*メニューの開発等を展開してきました。
- 毎年、加古川市農林漁業祭*を開催し、加古川市産農畜水産物の普及や地産地消*料理教室の開催等を展開してきました。
- 保育所では季節の野菜の栽培・収穫体験を年間を通して実施してきました。また、学校では環境体験事業*を学校支援ボランティアや地域企業と連携して実施してきました。

【幼稚園でのさつま芋ほりとさつま汁パーティーの様子】



【小学校でのなかよし農園米作りの様子】



(3) 最終評価から見てきた課題

- 保育所・学校園*における体験活動（栽培活動）はほぼ実施していることから、今度も引き続き実施していくことが大切です。
- 地産地消*という言葉と意味の普及啓発は進捗がみられますが、市内産・県内産の食材を使うように心がけている人の割合は進捗がみられません。加古川産食材への関心を高め、地域の特性に応じた食生活の形成や地域の活性化につなげるための取り組みが必要です。

【5】食育推進のための環境づくり

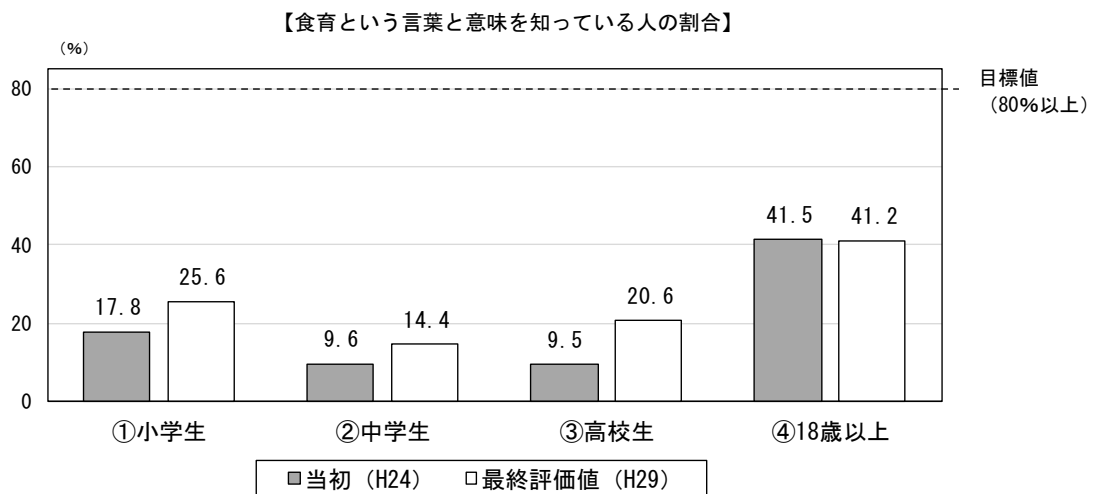
(1) 評価指標の達成状況

■指標(1)食育という言葉と意味を知っている人の割合の増加

食育という言葉と意味を知っている人の割合をみると、平成24年度に比べて、④18歳以上は0.3ポイント減少しています。一方で、①小学生は7.8ポイント、②中学生は4.8ポイント、③高校生は11.1ポイント増加していますが、いずれも目標値は達成していません。

<目標値>

①小学生、②中学生、③高校生、④18歳以上 80%以上



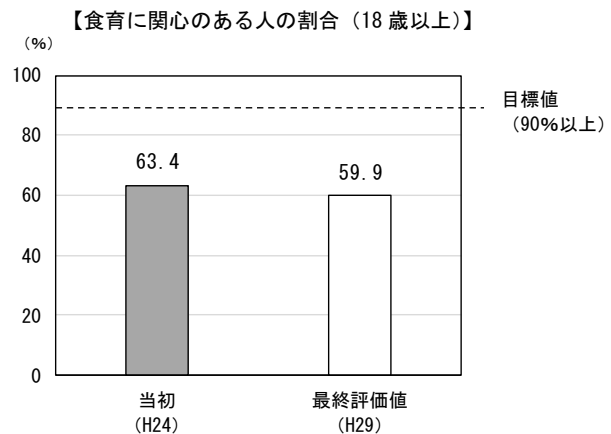
資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

■指標(2)食育に関心のある人の割合の増加

食育に関心のある人の割合をみると、平成24年度に比べて、3.5ポイント減少しており、目標値は達成していません。

<目標値>

90%以上



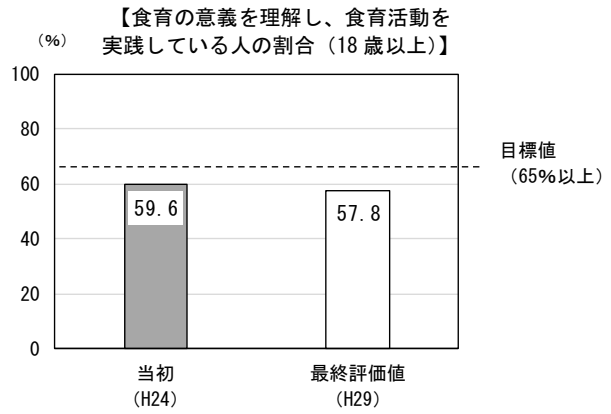
資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

■指標(3)食育の意義を理解し、食育活動を実践している人の割合の増加

食育の意義を理解し、食育活動を実践している人の割合をみると、平成 24 年度に比べて、1.8 ポイント減少しており、目標値は達成していません。

<目標値>

65%以上



資料：市 食と健康についてのアンケート (H24・H29)

(2) これまでの主な取り組み

- 食育推進計画市内推進会議を開催し、体系的な食育をするための行政の取り組みを協議・検討してきました。また、平成 27 年度からはワーキングチームを設置し、食育イベントとして『かこがわウェルネスレシピコンテスト』を開催しています。

<レシピコンテストテーマ>

第1回：加古川市産品の食材を使った『簡単、おいしい、アイデアレシピ』

第2回：家庭の食品ごみを減らすために『エコ やさい レシピ』

第3回：レッツ『ベジ・ファースト*』

～はじめに美味しく食べよう！野菜おかずレシピ～

- 関係団体との連携・調整を行うことを目的にウェルネスプラン推進連絡会を開催し、加古川市の健康課題を共有することから、食を切り口とした健康課題解決の取り組みを協議・検討してきました。また、イベント（加古川ツデーマーチ）での『食と健康についてのクイズラリー』を関係団体協力のもと、実施してきました。
- 市ホームページに『季節のレシピ』を掲載したり、レシピコンテストの入賞作品レシピ集を掲載しています。また、市広報誌やSNS*（フェイスブック等）を効果的に活用し、食育に関する記事を掲載しています。

【レシピコンテスト 表彰式の様子】



【ワーキングメンバーによる試食審査の様子】



【加古川ツデーマーチでのクイズラリーの様子】



(3) 最終評価から見てきた課題

- 食育という言葉の周知度は向上していますが、意味まで理解している人の割合は低い状況であることから、今後も食育という言葉とその意味を普及啓発することが必要です。
- 食育に関心を持ってもらえるような取り組みをさらに強化するとともに、食育の意義を理解し、実践へつなげるための取り組みが必要です。

3 前食育推進計画の最終評価を踏まえた重点課題

若い世代・子育て世代への食育力の強化

子どもの望ましい食習慣の定着や食への関心を高めるために、特に若い世代や子育て世代の食育力を強化する必要があります。

共食*の推進など、家庭における食育の推進が基本となることから、仕事と生活の調和（ワーク・ライフバランス）等の推進に配慮することも必要です。また、認定こども園・保育所・学校園*での食育活動を家庭につなげる取り組みをさらに充実させることが必要です。

健康課題解決に向けた食育の推進

本市では、糖尿病のリスクのある方の割合が県内でも高い状況にあります。

栄養バランスのとれた日本型食生活*の推進をはじめ、野菜摂取の増加につながるように「ベジ・ファースト*」を推進していく必要があります。

また、若い世代では朝食を欠食しないことから規則正しい食生活の実践と定着へつなげることや、適正体重*を維持する食事を把握することから特に男性の肥満対策に重点を置くことが必要です。

今後、健康寿命*の延伸につながる食育を推進するために、高齢者の低栄養問題に対する知識の普及啓発や、高齢者の健康増進につながる取り組みも必要です。

食を大切にする意識と「加古川産」への理解につながる食育の推進

地産地消*の意識を定着させ、地域の農畜水産物への理解を深めるための取り組みを推進していく必要があります。

また、地域の特性を活かした食文化の継承や新しい食文化の創造を推進するとともに、地域の食材を活用した日本型食生活*の推進と実践につながる取り組みが必要です。

食育ネットワークの拡充

各世代を通じて食育への関心を高め、自分らしい食育の実践へつなげるために、庁内食育関係各課及び関係団体とのネットワークづくりを拡充し、食育に関する様々な団体との協働を推進していく必要があります。

また、食育ボランティアの活動支援や人材を確保するために食育推進体制の充実を目指します。